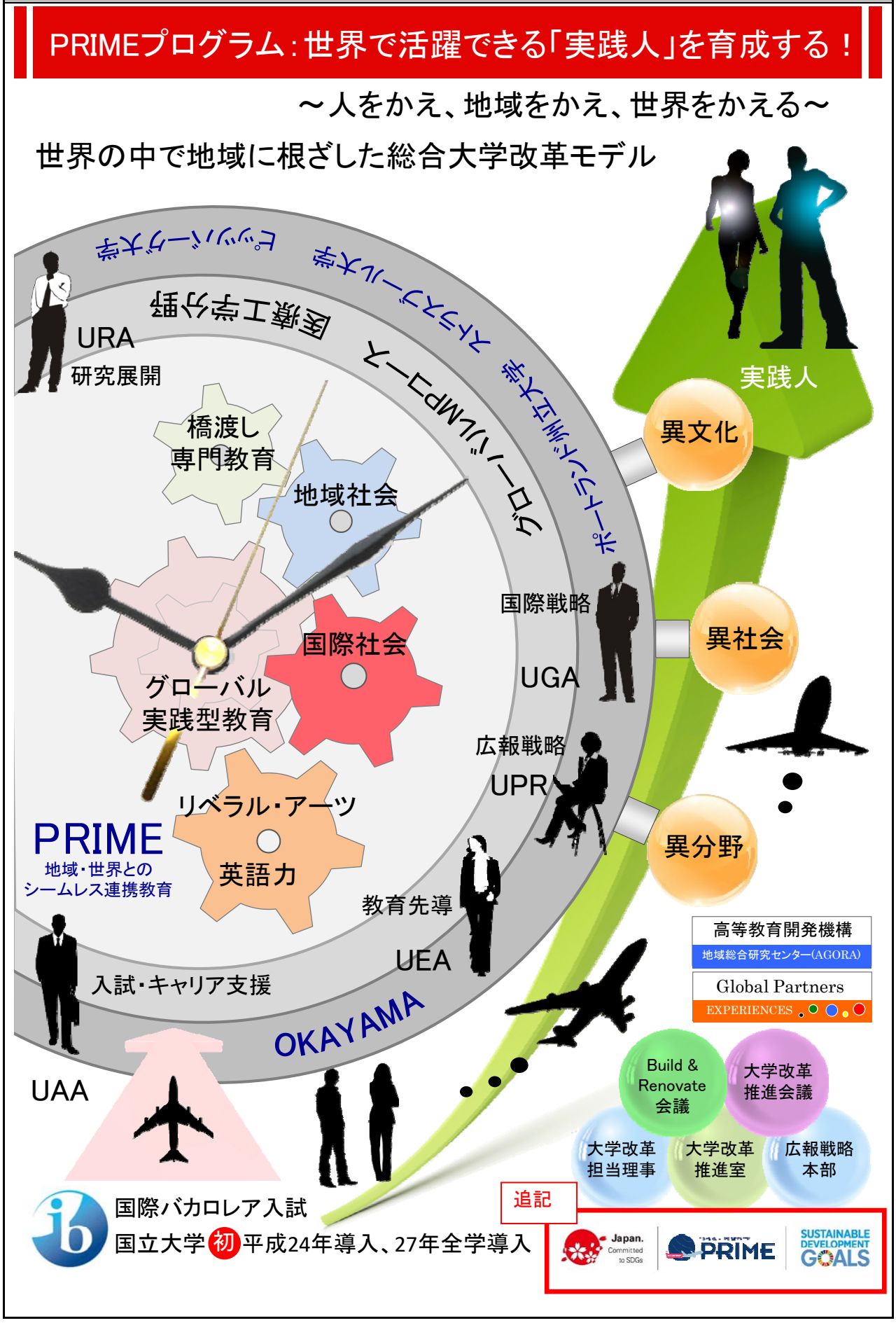
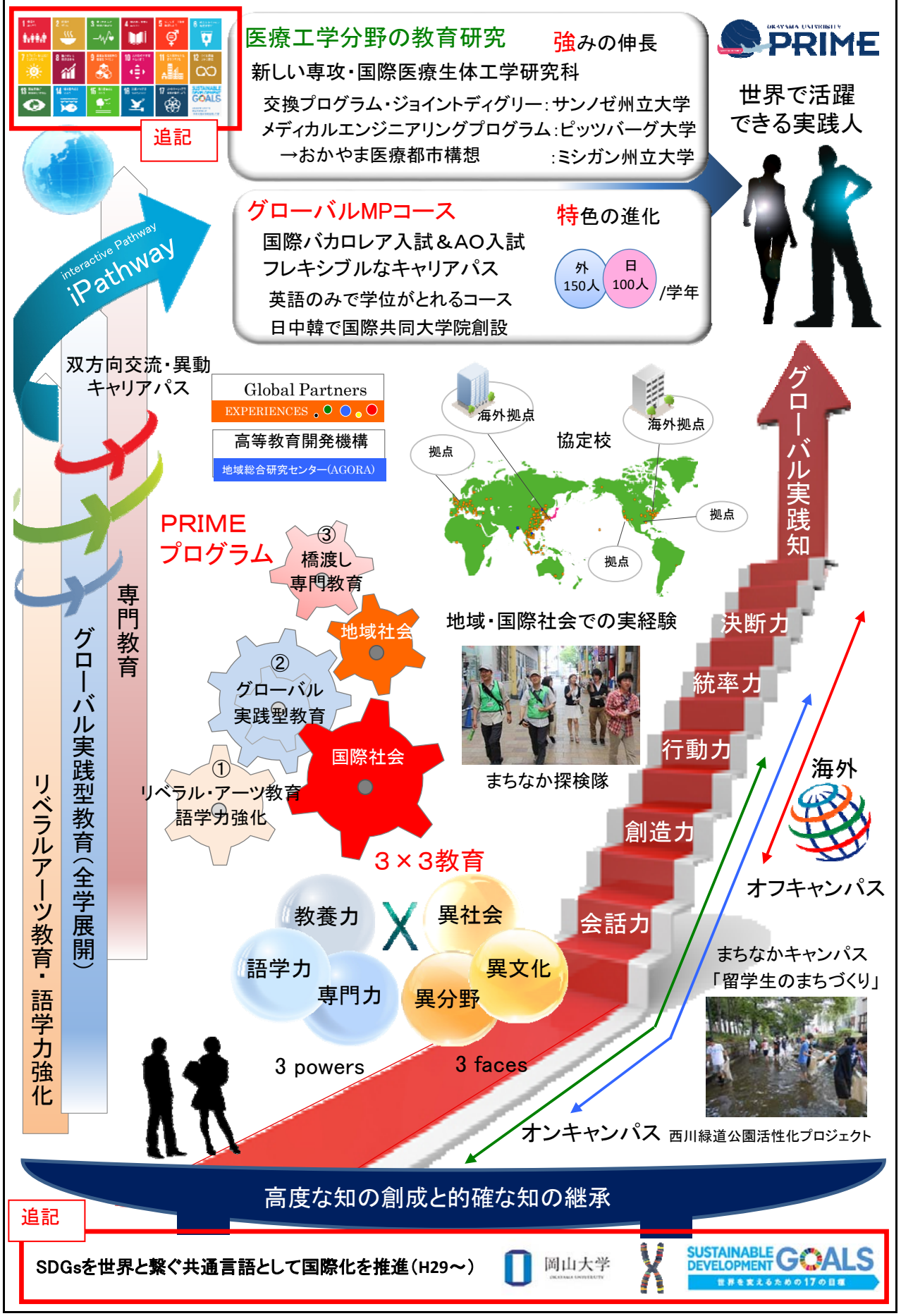
様式１

① 構想全体の概念図【１ページ】※構想の全体像が分かる概念図を作成してください。



（大学名：岡山大学）（申請区分：タイプＢ）

②　共通観点１（構想の創造性、展開性等）概念図【１ページ】



（大学名：岡山大学）（申請区分：タイプＢ）

共通観点１　創造性、展開性等【４ページ以内】

○　構想・ビジョンが、各大学の理念等と整合し、かつ戦略性、創造性、展開性及び実現可能性を有したものとなっているか。タイプに合った革新性、先見性及び先導性ある構想となっているか。また、取組が概ね全学的なものであり、大学全体の底上げが認められる内容となっているか。

【大学の理念】

岡山大学の理念：高度な知の創成と的確な知の継承

人類社会を安定的、持続的に進展させるためには、常に新たな知識基盤を構築していかねばならない。岡山大学は、公的な知の府として、高度な知の創成（研究）と的確な知の継承（教育と社会還元）を通じて人類社会の発展に貢献する。

岡山大学の目的：人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築

「自然と人間の共生」に関わる、環境、エネルギー、食料、経済、保健、安全、教育等々の困難な諸課題に対し、既存の知的体系を発展させた新たな発想の展開により問題解決に当たる。このため、我が国有数の総合大学の特色を活かし、既存の学問領域を融合した総合大学院制を基盤にして、高度な研究とその研究成果に基づく充実した教育を実施する。

各項目の基本的目標：

教育：学生が主体的に“知の創成”に参画し得る能力を涵養するとともに、学生同士や教職員との密接な対話や議論を通じて、個々人が豊かな人間性を醸成できるように支援し、国内外の幅広い分野において中核的に活躍し得る高い総合的能力と人格を備えた人材を育成する教育を行う。

研究：常に世界最高水準の研究成果を生み出すことをその主題とし、国際的に上位の研究機関となるよう指向する。

社会貢献：社会が抱える課題を解決するため、総合大学の利を活かし、大学の知や技術の成果を社会に還元すると同時に、積極的に社会との双方向的な連携を目指す。

経営：トップマネジメントにより、人材などの資源を戦略的に利活用する。

自己点検評価：不断の自己点検評価を実施公表し、大学改革に反映する。

【本構想の目的】

本構想の目的：

学生が３基幹力／3 powers（教養力、語学力、専門力）を修得し、３側面／3 faces（異分野、異社会、異文化）の経験を持てるように、３×３（スリー・バイ・スリー）教育を全学体制で推進し、世界トップステージで活躍できる実践人を育成する。

本構想のアクション：

PRIME（PRactical Interactive Mode for Education）**プログラム**を本構想のコアとした**国際社会連携教育体制を全学展開**する。また、本構想の実現のため、大学の組織や設備の**ビルド＆リノベート（B&R）**を行う。**岡山大学の改革構想と将来ビジョン**は、改革の柱を、①教育研究推進機構と改革検討機構の分離、②改革を先導する教育研究組織の新設、③異分野、異社会、異文化融合による協働体制強化、④全学組織体制の整備と強化、⑤ビジョン・戦略を明確にする情報管理・発信強化、とし、**聖域なき（横串）改革の日常化を図っている**。これを受け、**岡山大学改革プラン**では、従来の改革の継続に加えて、平成 26 年度以降に新たに 50 項目以上の改革を実行する。

PRIME プログラム：
①グローバルに通用するリベラル・アーツ教育と自分の考えを英語で語れる語学力の強化
②グローバルな現場で通用する実践知を涵養する教育
③基盤知識・行動をベースとした国際社会に繋がる橋渡し専門教育

これらにより、学生と教職員は高度な能力を身に付けて世界に出かけ、また世界から優れた学生や教員及び研究者を岡山大学に迎え、岡山大学を世界に向けて創造的な知の成果、技の結実を発信する大学に進化させる。**人をかえ、地域をかえ、世界をかえ、10 年後、世界に存在感を示す岡山大学になる**。

（大学名：岡山大学）（申請区分：タイプＢ）

【本構想における取組概要】

PRIME プログラムにより、**学生は３基幹力／3 powers を知識として持つだけではなく、３側面／3 faces の経験によりグローバルな現場で試す機会を持つことができ、現場で必要な、会話力、創造力、行動力、統率力、決断力を涵養し、実践の現場で適切な判断をくだすことができる能力（グローバル実践知）を身に付けることができる。**

１．グローバルに通用するリベラル・アーツ教育と語学力の育成

グローバルに通用する**リベラル・アーツ教育**のためには、真のリベラル・アーツの精神を具現する科目を用意し、英語で履修できる教養教育科目を拡充し、かつ日本語・日本文化を修得する必要がある。このため、**高等教育開発機構を設置**し（平成 26 年 10 月）、全学的・体系的・戦略的な教養教育体制を構築する（平成 28 年度導入）。

リベラル・アーツの科目編成は、中教審答申（平成 14 年、20 年）を踏まえ、アクティブ・ラーニングの手法を入れて、現代の先端科学、歴史、宗教、文化に関する幅広い知識を学ぶ。また、言語や情報及び論理学といった基礎力習得のための授業を展開する。さらに、創造的知性の育成のための芸術アート教育のプログラムを、地域人との協力の中で実現していく。リベラル・アーツ分野の英語化によって、日本文化を英語で習得する途を開き、日本人学生の国際プレゼンテーション能力を飛躍的に向上させる。実践的な日本文化の学びは、日本人のアイデンティティ形成に不可欠の教養教育と捉える。日本語・日本文化の習得は、留学生にも必修化し、将来の日本企業でのキャリア実現・就職支援の一環とする。

一方、日本人の**英語力強化**については、従来から実施している英語レベルによるクラス分け授業、外部検定試験の全学複数回導入、英語授業の倍増に加え、ネイティブ教員の年俸制による戦略的採用で内容の充実を図る。海外体験を増やすため、全学で取組んでいる**グローバル人材育成特別コースの海外留学制度**（平成 25 年度設置）を順次拡充する（平成 25 年度 50 人→平成 27 年度 100 人→平成 30 年度 150 人）。

２．グローバル実践型教育の全学展開

学生にグローバルな現場（地域・企業・国際社会の現場）を体験させ、地域・企業・国際社会と協議して設定した課題を解決することによりグローバル実践知を修得させることは、21 世紀を担う世界のリーディング大学の重要課題である。**このグローバル実践型教育は、学生のグローバル実践知修得のみならず、地域・企業・国際社会との互恵性を保持することも目的としており、この点で従来の専門力を中心とした学生教育主体の実習教育と根本的に異なる。**

岡山大学は、既に、実践知教育分野として、岡山を中心に地域医療や地域教育の先駆的な達成を生み出しており、**本事業は、この教育を国際社会連携まで広げるとともに全学展開する。**岡山大学地域総合研究センターAGORA（Academic and General Okayama university Regional research Association: 平成 23 年度設立）が試行している取組を全学の教養教育科目・専門教育科目の中に具体化し、新たな企画を設定して、日本人学生が外国人学生と共に岡山の歴史・文化・産業を学び、まちづくりや地場産業に中長期的に関わることで地域を活性化する。特に、平成 29 年度からは、PRIME プログラムをよりグローバルな視点に立つ取組とするために、**平成 27 年度に国連より提唱された「持続可能な開発目標」（SDGs：Sustainable Development Goals）を世界と繋ぐ共通言語として国際化を推進する。**岡山大学の目的である「人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築」のもとに、SDGs 達成の観点を取り入れることで、社会課題を発見・解決する実践人を育成し、地域や国際社会との一体的なパートナーシップを構築する。これによって、持続可能な社会の実現に貢献し、世界で存在感を示す岡山大学になることを目指す。

また、海外大学との**国際共同カリキュラム構築**や**国際共同大学院**、**ジョイントディグリー制度創設**、及び**海外キャンパス設置**により、国際社会連携教育を充実させ、日本人・留学生・外国人教員

の間での対話を通じて、日本人学生のミッションを自覚させ、グローバルな視野を持たせる。これらを高学年の専門教育と並行して実施することで、学生は修得した専門知識を活用できる知とし、自分の思考や行動に反映できる。

３．国際社会に繋がる橋渡し専門教育

専門力は、10 基幹学部（文、教育、法、経済、理、医、歯、薬、工、農）と社会ニーズ対応（&得意分野）学部（環境理工：平成 6 年設置、持続可能な開発のための教育（ESD: Education for Sustainable Development）と研究を 10 年前より推進）で、創造性豊かな教育を展開する。

また、多様な専門知識を有したグローバル人財の育成を支援するインタラクティブパスウェイ（interactive Pathway: iPathway）を設ける。iPathway とは、３基幹力の修得や３側面の経験値に双方向交流・異動が可能なキャリアパスである。

（１）特色を進化させるグローバルマッチングプログラムコース

岡山大学は、学生自らの課題提案型履修プログラムを核とし、特定の学問領域又は複数の学問領域にわたって学修することのできる教育課程として、全国でも数少ないマッチングプログラムコースを全学の協力体制で設置している（平成 18 年度～）。本コースの入試は、AO 入試であり、平成 24 年度には**国立大学で初めて国際バカロレア入試を導入**している。

本取組では、**グローバルマッチングプログラム（グローバル MP）コースとして、留学生を増やし、入学者数を増加させ、さらに文理融合型の iPathway を設ける。**平成 29 年度から入学定員を増やし（平成 26 年度 16 人＋α→平成 29 年度 60 人、うち半数は留学生）、平成 31 年度に専門選択の自由度が高い新学科を設置し 120 人（留学生 60 人、日本人学生 60 人）へ、10 年後には１学年あたり留学生 150 人、日本人学生 100 人（250×4=1,000 人）の規模とし、新学部の設置を目指す。また、本プログラムコースには、英語のみで学位を修得できるコースを用意すると共に、英語を主言語とする学生に日本語教育や日本文化の科目履修を必須とする。日本人学生には英語習得、海外留学を課す。さらに、留学生と日本人学生が共に学ぶ混合ゼミを開講する。

学生の選考は、**TOEFL 等を活用した AO 入試**と**国際バカロレア入試**とする。高学年進級時は、学生の志向により専門分野を専攻させ、大学院とのシームレスな教育コースにつなげる。CAMPUS Asia（日中韓で次世代の中核人材を育成する仕組）での実績をベースに日中韓で**国際共同大学院**を創設する。留学生に対しては、現有の「日本語会話パートナーSakura」「にほんごカフェ」に加え、**予備教育特別コース**（大学院向けを平成 26 年 10 月開講）で日本語クラスを開講し、日本語能力試験(JLPT)やBJT ビジネス日本語能力テスト受験を積極的に奨励し、必要に応じて就職支援活動を行う。

（２）強みを伸長する医療工学分野の学部・大学院

岡山大学は、ミッション再定義において、病院ネットワークを活かした**臨床研究や移植医療の推進（医学）、医農との異分野融合／生物機能（工学）、医歯薬理工農分野との連携（看護・医療技術）**という使命を得た。また、**研究大学強化促進事業の支援対象機関（22 機関）に選定**された。さらに、岡山大学病院は**臨床研究中核病院**に選定されている。

本構想では、これらの強みを伸長し使命を果たすため、**iPathway** として、自然科学研究科内に**生命医用科学専攻**（入学定員博士前期 57 人、後期 10 人）を設置する（平成 27 年度）。その後、医歯薬学総合研究科、保健学研究科と環境生命科学研究科を改組し、**国際医療生体工学研究科を新設**する（平成 30 年度）。国策としての医療機器開発、再生医療は成長産業であり、社会のニーズに合わせて**医療工学部を新設**する（平成 33 年度以降）。

また、医薬品医療機器総合機構（PMDA）との**連携大学院**を基盤に、自治体や企業と協働して医療機器や認知症早期診断法を開発し、ウエイン州立大学、ミシガン大学等と協力し、がん幹細胞研究、タンパク制御研究、老齢学研究を通して**新医療技術を創出**する。さらに、サンノゼ州立大学と交換プログラムを設定し、**国際共同大学院を創設**する（平成 29 年度）。

さらに、留学生をリクルートし、海外大学や企業との提携により、グローバルな大学院教育を強化する。留学生と日本人学生はペアを組んで国内外の企業で、**OJT (on the job training)**を実施する。現場のニーズを獲得するため、留学生と医系大学院生（医師）がペアを組み、岡山大学病院だけではなくピッツバーグ大学やミシガン大学など海外提携大学病院にも行き、医療現場で医療機

器の開発・改良の実践研究に携わる（**メディカルエンジニアリングプログラム**）。自治体・地域企業との高度な連携を構築し、共同商品の開発等により実績・成果を地域・社会に還元し、医療で目指す「一番住みたい所・岡山」を創成する（**医療都市構想**）。

---本構想の基盤となる体制構築の取組---　戦略性と創造性に富んだ革新的な本構想を先導的に高い実現可能性で実行・展開するためには、学長の強いリーダーシップによる基盤体制構築が必須である。本構想の実現は、教育研究の様々な施策と国際戦略に複雑に関係しており、以下の５分野戦略（経営、教育、研究、国際、医療）と連動して取組む。

- **経営**　◎大学改革推進体制の強化：全国でも数少ない大学改革担当専任理事や大学改革推進室を設置し、大学改革推進会議や大学改革懇談会等を実施、大学改革に特化した大学改革推進経費を新設する。部局長選考方法の改革、全学統一基準運用を行う。◎５Ｕ戦略：学長・担当理事の下、大学力を強化する機動力として、自らの判断で動く実務家集団 5U（UEA：教育先導、URA：研究展開、UAA：入試・キャリア支援、UGA：国際戦略、UPR：広報戦略）を年俸制により学内外から登用する(平成 26 年度より)。◎人財育成（人をかえる仕組）：教職員のマインドを“変える”ために、SWAP 制度を導入、人財育成プログラムを拡大して改革意識を高める。職員を“替える”(採用する）際、留学経験や企業経験も重視する。◎年俸制の拡大：改革加速期間中に 25％導入、10 年後に 50％超えを達成する。人財の流動性を図り、優秀な人財登用、外国人雇用の拡大を行う。◎教員配置の見直し：学生定員、教育研究や実務のエフォート、管理運営の比重等をもとに、過去に囚われない新たな教員配置基準を設定し、組織改革の人的資源を再配分する。
- **教育**　◎高等教育開発機構：戦略的な教育方法を研究企画する新機構として設置する(平成 26 年 10 月)。教養教育改革やグローバル実践知育成のための PDCA サイクルを構築する。◎教育実質化(平成 28 年度)：1 コマ 60 分授業を全学展開し、90 分を 2 時間とみなす現状から脱却する。学士課程教育構築（Q-cum）システム、ナンバリングを全学導入し、授業の可視化を行う。◎学事暦（平成 28 年度)：クォーター制を全学導入する。◎学修環境：多様な学びに対応させた図書館や講義室、国際学生シェアハウスの拡充を行う。◎社会人リカレント教育：現行プログラムを継続拡大する。
- **研究**　◎異分野交流の活性化：異分野融合研究を増強し、次世代を担う新たな先導的研究を推進する。◎共同利用・共同研究拠点の強化：国際共同研究拠点の形成と強化を行う。◎開発支援：医療機器・器具などのシーズとニーズのマッチング向上を目的とした「技術研究組合」を創設し、開発研究を社会実装に繋げる仕組を確立する。◎研究支援センターの基盤強化：全学支援センターとしての研究環境を支援・強化する。◎知財戦略を整備し、海外を意識した知財戦略と情報発信を拡充する。
- **国際**　◎グローバル・パートナーズ設置：国際センターを機能強化した新組織として設置する。グローバル・リーチ、スタディー・アブロード部門、受入支援部門、国際企画・総務部門を新設する。◎グローバル人材育成特別コース：現在の規模を拡大し留学派遣を倍増させる。◎日本語教育：予備教育特別コースを設け留学生の日本語教育を行う。◎国際バカロレア入試：書類選考で世界から優秀な学生を獲得する。◎国際共同大学院：国際共同大学院を創設し、海外キャンパス設置を目指す。◎スタッフ強化：海外 SWAP 制度により職員の能力を強化する。◎海外ネットワーク拡大：海外協定校、海外事務所及び国際同窓会支部を拡大・強化する。◎英語授業の拡大：外国人教員の積極採用並びに英語による授業の拡大を行う。
- **医療**　◎医療工学系の教育研究の強化：新専攻、新大学院を設置し、新学部設置を目指す。◎岡山大学病院の機能強化：世界をリードする移植医療の機能強化。臨床研究中核病院として日本発の革新的医薬品並びに医療機器を創出する。理化学研究所、PMDA との連携大学院・人財交流を活性化する。◎地域病院との共同：がん陽子線治療センターを開設する（津山中央病院共同)。市民病院との共同 ER 型救急システムを構築する。◎医療スタッフ人財育成：国立六大学（岡山、千葉、新潟、金沢、長崎、熊本）連携でミャンマー医療人育成支援プログラムを継続支援する。

１．国際化関連　（４）　語学力関係

①外国語による授業科目数・割合【２ページ以内】

【実績及び目標設定】　　各年度通年の数値を記入

	平成２５年度	平成２８年度	平成３１年度	平成３５年度
外国語による授業科目数（Ａ）	200　科目	300　科目	950　科目	2,100　科目
うち学部（Ｂ）	36　科目	100　科目	350　科目	800　科目
うち大学院（Ｃ）	164　科目	200　科目	600　科目	1,300　科目
英語による授業科目数（Ｄ）	186　科目	295　科目	940　科目	2,080　科目
うち学部	35　科目	100　科目	350　科目	800　科目
うち大学院	151　科目	195　科目	590　科目	1,280　科目
全授業科目数（Ｅ）	8,057　科目	8,100　科目	8,100　科目	8,100　科目
うち学部（Ｆ）	4,469　科目	4,400　科目	4,400　科目	4,400　科目
うち大学院（Ｇ）	3,588　科目	3,700　科目	3,700　科目	3,700　科目
割　　合（Ａ／Ｅ）	2.5　％	3.7　％	11.7　％	25.9　％
割　　合（Ｂ／Ｆ）	0.8　％	2.3　％	8.0　％	18.2　％
割　　合（Ｃ／Ｇ）	4.6　％	5.4　％	16.2　％	35.1　％
割　　合（Ｄ／Ｅ）	2.3　％	3.6　％	11.6　％	25.7　％

【これまでの取組】

１．学部教育

国際社会に貢献できる人財を育成するため、積極的に諸外国からの留学生の受入や日本人学生の海外派遣を行っている。また、諸外国への留学・学術情報の交換等を推進するために交流協定を締結するなど大学の国際化と国際交流に取組んでいる。その結果、**締結した交流協定（大学間協定77件・部局間協定188件）**を利用し、平成10年度から**岡山大学短期交換留学プログラム（EPOK）**を実施しており、毎年度20名程度の海外派遣及び受入を行っている。主に短期交換留学制度で受け入れた留学生向けに、英語による授業科目群「日本のエネルギーと環境問題」「物質観：西洋と日本」など、世界と日本をつなぐ内容の授業を教養教育科目として開講し、留学生、留学を希望する学生、一定の英語力（TOEFL iBT57点以上）を持つ日本人学生が、ともに履修している。

平成25年度には、語学力や国際的教養を身につけ、グローバル社会でリーダーシップを発揮し、未来を切り開いていける人財を育成することを目的に**グローバル人材育成特別コースを設置**し、生命や倫理、現代社会における諸課題についての考察及び発表を行うなどの講義を、英語により開講している。

外国語による授業科目を履修できるよう英語教育改革を行い、平成25年度入学の全学部学生に対し、英語能力を向上させるための授業を実施した結果、1年間で全学1年次生のTOEIC-IPスコアの各学部の平均点が最大47点上昇した。

２．大学院教育

博士前期課程に設置の岡山大学-フエ大学院特別コースにおいては、全授業科目を英語で実施している。

博士後期課程において、外国人留学生を対象とした授業科目を、英語により実施しているほか、言語だけでなく文化を学ぶため、ドイツ語・フランス語による授業科目も展開している。

３．外国語による科目数の増加

外国語による授業を開講した場合のインセンティブとして、担当教員に国際化推進教育手当を支給している。

【本構想における取組】

１．学部教育

語学教育を除いた外国語による科目として、全学で教養教育 2 単位と専門教育 2 単位の合計 4 単位を卒業要件に含める。

平成 26 年度から、短期交換留学生向けの外国語による授業科目を充実させる。

平成 28 年度から、教養教育として岡山の文化や地域に特化した内容及び専門教育として各学問分野における基礎的な内容を英語による授業科目として開講する。また、学生参画型授業を企画・立案している**学生主体の全学委員会「学生・教職員教育改善専門委員会」と、L-café 利用者が協同し、学生目線での英語による科目を企画・実施**する。これらについては、毎年度アンケートをとり、開講科目の見直しを行う。また、グローバル化をさらに加速させるため、英語によるディベートを多く組み込んだ演習科目の拡充を進める。

グローバル人材育成特別コースの拡大（定員 50 名→100 名→150 名）に伴い、異文化の理解、コミュニケーション力の育成、日本及び地域文化の理解、日本の自然及び地域産業に関する理解等のリベラル･アーツ並びに最先端のテーマを扱う専門教育科目について､外国語による講義を増やす。これにより、留学終了後の語学力の維持･向上も図る。また、一般学生に対しても授業を開放する。

現行の MP コースを拡大してグローバル MP コースとし、受入れ留学生数を増やし、外国語（特に英語）による授業科目数を増加させる。

２．大学院教育

講義科目においては、平成 28 年度までに、英語能力の涵養、留学生への科目提供にとどまらず、現在、留学生を対象として開講している英語による授業科目を充実させ、日本人学生が積極的に受講するよう、**各研究科のコースワークに組込む**。また、より海外を意識させ、英語を学ぶきっかけをつくるための取組として、平成 29 年度からは、**国際学会への準備、発表、事後報告を基本とした新規科目を開設**する。

併せて、演習科目においては、様々な地域から来る留学生を活用し、英語を基本言語としながらも、さまざまな言語が飛び交い、議論が進行することが日常的な授業の風景となるための環境を整備する。具体的には、学士課程からの英語による授業科目履修とともに、**第二外国語の習得**を推奨し、多様な文化を背景とする議論に慣れさせる。これにより、学生は、英語のみならず、世界的な視座から、多様な言語とその文化の枠組を修得することができる。

３．外国語による科目数の増加

平成 26 年度から、**新規採用教員には英語での専門科目講義の担当を 1 科目以上義務付ける**。これにより、年 100 科目以上の外国語による授業の増加を行う。

教員が英語で授業を行う、あるいは、英語を中心とした議論を先導するための技術を身につけるため、**UEA (University Education Administrator)**を中心としたワーキンググループを立ち上げ、平成 27 年度までに教員の研修計画を立案する。平成 28 年度からは当該研修を実施するとともに、**外国語による科目についてのティーチング・チップス集を作成**し、質の向上を図る。

外国からの留学生受入れの大幅な増加､日本人学生の海外留学に対する動機付け及び語学能力の向上を目的として、英語による授業科目数を増やすこととし、最終的には、1 人の教員が年間最低 1 科目の英語による授業科目を担当する。

また､海外の大学とのダブルディグリーやジョイントディグリーを充実･発展させることにより、海外から受け入れた学生の短期間での単位修得や研究指導のためにも､英語科目や研究指導の充実を図る。

４．オープンコースウェアの活用

JMOOC（Japan Massive Open Online Courses）に外国語による授業科目を提供し、その教材を利用した反転授業を展開する。また、国内外の大学が提供する外国語による授業科目について、一定の条件の下、単位を認定する。

共通観点３　大学独自の成果指標と達成目標【３ページ以内】

○　意欲的かつ挑戦的な独自の定量・定性的成果指標と達成目標が、各大学の構想に応じて設定されているか。

【実績及び目標設定】

＜定量的＞　　各年度大学が定める時点又は通年の数値を記入

	平成２５年度（通年）	平成２８年度（通年）	平成３１年度（通年）	平成３５年度（通年）
PBL 型研修参加者数	149　（人）	300　（人）	600　（人）	1,000　（人）
専任改革担当者数	5　（人）	22　（人）	26　（人）	26　（人）
グローバル MP コース入学者数	17　（人）	17　（人）	120　（人）	250　（人）
異文化交流体験率	10.0　（%）	50.0　（%）	100.0　（%）	100.0　（%）
高度実践人数	0　（人）	100　（人）	280　（人）	560　（人）
	平成２５年度（H25.5.1）	平成２８年度（H28.5.1）	平成３１年度（H31.5.1）	平成３５年度（H35.5.1）
異社会経験教員数	388　（人）	520　（人）	660　（人）	800　（人）

＜定性的＞

(1)グローバル化に対応するため積極的に改革が必要と考えるマインドを持つ教職員を増やす。

(2)教養教育で学んだことを実践人として活用できるように、その一部を高年次で必修化する。

【これまでの取組】

１．人財育成（「人をかえる」仕組）と共に、改革を全学的に日常化し、社会要請を重視して改革推進する取組

人財育成（「人をかえる」仕組）として、民間企業との相互人事交流制度を実施している。さらに、PBL 型研修として「グローバルリーダーシップ研修」「岡山大学若手職員塾」「部局長等合宿研修」を独自に展開している。また、平成 25 年 10 月に**大学改革の企画戦略を行うプロジェクトチーム**を設置すると共に、平成 26 年 1 月より大学改革推進準備会議を設置して、改革を強力に推進している。

さらに、他大学に先行して URA を大学自主財源（大学機能強化戦略経費）にて平成 24 年度より設置し、**学外から URA を採用**して研究に関する改革を推進している。

２．多様な学生の入学を可能にする取組・専門の選択を柔軟化する取組

マッチングプログラム（MP）コースでは、多様な学生の入学を可能にするための AO 入試を行っている。この MP コース入試では、自己推薦書及び調査書の書類審査により第一次選抜を行い、第二次選抜では、2 科目の講義を受講して作成するレポート、小論文、発表、グループ討論及び個人面接の結果を総合して入学者を選抜している。これにより、**学力偏重ではなく、多様な学生の入学**を可能にしている。

また、MP コース入学後は、学年担任教員とアカデミックアドバイザーの指導の下、既存の学部・学科のカリキュラムの枠を超えて履修プログラムを作成し学修する。具体的には、学生自身が主体的に既存のカリキュラムの枠組を超えた履修プログラムを作ることにより、各自の学習目的を達成し自らの将来を切り開いてゆく、つまり**学部・学科横断型オンリー・ワン・プログラム**としている。卒業研究は、各自が立案した課題を追求するのに最適な教員の指導のもとで行うことができるシステムであり、さらに入学から卒業まで学生の自主自立性を尊重しながらも担任教員とアカデミックアドバイザーによる適切な指導・助言体制のもとで大学が責任を持って育成するシステムである。

これらにより、自主的に課題を立案する旺盛な探求心や基礎的な教養習得に励み、多方面に開かれた視野、国際交流に必要な表現能力の習得と世界で活躍できる意欲を持つ学生を育成している。

３．実践型教育の取組

実践型教育として、岡山大学地域総合研究センターAGORAによる取組を進めてきた。例えば、オフキャンパスの活動拠点として「まちなかキャンパス城下ステーション」を開設し、地域との連携強化の活動のため、まちづくりに関する各種プログラムを実施する**「まちなかキャンパス事業」（アゴラ喫茶や哲学カフェ、スポーツカフェなどの公開講座）**を展開し、地域と学生との「対話」によるまちづくりを推進した。また、「学生によるまちづくり企画」では、学生が高等学校へのキャリア支援出張授業を行う「OKAYAMAカタリバPROJECT」、商店街と連携して地元のサッカーチームを応援し、まちの活性化を図る「おかやま百年構想」などを実施した。また、自然科学研究科・環境生命科学研究科において開設している「先進基礎科学特別コース」では各専攻における研究教育に加えて、多様なインターンシップやキャリア教育を組み込んだ革新的教育により、企業の高度専門技術者や大学の先駆的研究者としてリーダーシップを発揮する能力を有する学生（プロジェクトリーダー）を育成することを目的とした実践型教育を実施している。

【本構想における取組】

１．人財育成（「人をかえる」仕組）と共に、改革を全学的に日常化し、社会要請を重視して改革推進する取組

人財育成（「人をかえる」仕組）として、教職員のマインドを”変える”ために、研修を拡大し改革意識を高める。大学改革を日常化し、加速していくためには、教員と職員を合わせて人を”かえる”仕組により、全教職員に対し改革に対応するマインドセット及び経営・教育改革を支え大学執行部とともに戦略策定を行うアドミニストレーターの養成が重要である。人財育成システムを充実・強化することにより、現有の人を”変える”ことができる。このための有効な人財育成システムとして、従来本学で独自展開してきた**PBL 型研修を拡充**して新規プログラムを開発する。また、従来の事務職員を対象にした人事交流制度の交流先を地域官公庁へ拡充し、教員も対象とした**人事交換（SWAP）制度**へと発展させる。さらに、各研修プログラムへの主体的な参加者数の増加と、継続的な受講を促すため、**研修参加実績が反映される人事評価システムを構築**する。また、教職員を”替える”（採用する）際、特に教員公募においては、研究業績偏重ではなく企業等経験や海外経験も重視する。さらに、従来の研究業績に加えて企業経験等、異社会経験を加味できる年俸制を新設する。

これらにより、**異社会経験教員数**を増加させると共に、**グローバル化に対応するため積極的に改革が必要と考えるマインドを持つ教職員を増やす。**

改革を日常化するために、改革の立案を専任で行う担当者として、**大学改革担当理事（専任）**や大学改革推進室等を設置する。また、改革支援集団として、学長補佐及び支援スタッフを整備する。さらに、大学改革に特化した大学改革推進経費を新設する。改革の全学展開を強力に推進するため、改革のみを議論する会議として**大学改革推進会議**と**BR（Build & Renovate）会議**を設置する。

学外の意見を改革に取り込むため、５Ｕ戦略（大学力を強化する機動力）として、学長・担当理事の下、自らの判断で動く実務家集団**5U（UEA：教育先導、URA：研究展開、UAA：入試・キャリア支援、UGA：国際戦略、UPR：広報戦略）を学外から登用**する。また、学内外者による大学改革懇談会を開催する。

これらにより、改革を専任で行う担当者を置く（**専任改革担当者数**）ことで改革を日常化し、社会要請を重視した改革を推進する。

２．多様な学生の入学を可能にする取組・専門の選択を柔軟化する取組

MP コースとして、その入学者数を増加させてグローバル MP コースとして発展させ、多様な学生の入学を促進する（**グローバル MP コース入学者数**）。具体的には、グローバル MP コースで受入れる学生の入試は、日本人学生だけでなく外国人留学生も対象とし、かつ受入学生数を増加させる。さらに、受験学生の多様化に対応するグローバル MP コース入試の改革を行い、多様な人財を確保できる入試システムを構築する。

さらに、グローバル MP コースに所属する学生数の増加（留学生受入数の増加）、及びグローバル MP コース入試改革による多様な人財を確保できる入試システムの強化に合わせ、多くの専門分野に関し広い知識を有する学士（学術）だけではなく、在籍中の学生の意識変化に対応した転学部・転学科を可能とする。例えば工学部への転学部を許可することで学士（工学）の育成も行う。

３．高年次における教養教育の必修化、及びグローバル実践型教育の取組と認定システム

教養力は人の知性を示す土台である。自然や社会の多様な問題に対して関心を持ち、主体的な問題解決に向けての論理的思考力・判断力・想像力を有し、先人の足跡に学び、人間性や倫理観に裏打ちされる豊かな教養を持つことは、初年次の教養教育のみで得られるものではない。一定の専門知識を得た後に、自身の専門から離れた知識に触れることで、世界で通用する実践人としての幅を広げることができる。そこで、**教養教育科目の一部を高年次で必修化**し、専門性と豊かな教養を合わせ持つ人財を育成する。

また、地域・国際社会に入って人と触れ合うことで、知識を本物の見識とし、**実践の現場で適切な判断をくだすことができる能力（グローバル実践知）を育成**する。これまでの学内で終結しがちな教育の枠組を大きく転換し、地域・国際社会とともに学生を教育し、それによって社会を活性化するという、国際社会連携教育体制を構築する。地域総合研究センターAGORA に代表される取組を順次拡大し、日本人学生が外国人学生と共に岡山の歴史・文化・産業を学び、まちづくりや地場産業に中長期的に関わることで地域を活性化する。これにより、両学生が異文化と深く関わる機会を設け、日本人学生の視野拡大（**異文化交流体験率**）も図る。

本事業では、**PRIME プログラム**により実践人を育成するため、このプログラムの効果を可視化する指標として、**高度実践人認定システムを構築**する。高度実践人とは、クリエイティブな思考で積極的な実践を高度に行える人である。つまり、**３×３（スリー・バイ・スリー）教育**が育成する３基幹力（教養力、語学力、専門力）及び３側面（異分野、異社会、異文化）での経験において、３基幹力が高く、３側面の経験が豊富な人である。具体的な認定基準は、本事業の初期段階で検討し、明らかにする。例えば、以下の指標である。

＜３基幹力＞

・教養力として、教養教育科目の単位数が X 以上で、その GPA は 3 以上
・語学力として、外国語能力が高い（例えば、TOEIC700 点以上）
・専門力として、専門教育科目の単位数が Y 以上で、その GPA は 3 以上

＜３側面＞

・異分野の経験として、他学部の科目若しくは他学部との合同科目の単位数が Z 以上で、その GPA は 3 以上
・異社会の経験として、実践型教育科目の単位数が Y 以上で、その GPA は 3 以上
・異文化の経験として、留学経験あり

また、

＜総合的指標＞

・学士課程教育構築（Q-cum）システムでの各 DP の達成度が 80%以上
・コモン・ルーブリックによる「実践力」の多角的評価（ステークホルダーによる評価等）